

病虫害発生予察特殊報 第5号

病名：アルストロメリア黒斑病(仮称)

病原菌名：*Alternaria alstroemeriae* E.G. Simmons & C.F.Hill

1. 発生確認経過

平成20年1月、中信地方のアルストロメリア生産ほ場において、葉に黒色の斑点を生じ、病勢が進展した場合は、茎にも同様の斑点を生じる病害が発生した。県南信農業試験場で原因究明を行ったところ、*Alternaria alstroemeriae* (アルタリア アルストロメリアエ) による新病害であることが判明した。

本病原菌は2007年にオーストラリアで報告されたアルタナリア属菌の新種であり、国内では本県以外での発生は報告されていない。

2. 病徴等

- (1) 葉に初め黒褐色の小斑点を生じ、後に数cmの紡錘形の病斑に拡大する(写真1、2)。病斑が拡大して葉枯れ症状を呈することもある。
- (2) 激しく発病した場合は茎にも同様の斑点を生じる。
- (3) 被害は茎の中央から基部にかけて多い。
- (4) 栽培ハウス内では多湿となりやすい側面付近で発生が多い。
- (5) 本病と類似する病害に灰色かび病がある。本病の病斑が黒褐色であるのに対し、灰色かび病は茶～淡褐色であることから両者を区別できる。

3. 防除対策

- (1) 多湿条件で発生が多いので、芽の整理を行って株内の通風をよくし、ハウス内を換気する。
- (2) 病斑上に形成される分生孢子が伝染源となるため、発病部位を早期に除去し、ハウス外に持ち出して適正に処分する。
- (3) 現在のところ、本病に対する登録薬剤はない。



図1 アルストロメリア黒斑病の病徴



図2 葉の病斑



図3 病原菌の分生孢子